

洋子ありがとうがとつ

●第2回 福智町住民福祉講座

健康長寿の日制定記念初開催 病欠の津川雅彦氏に代わり兄の長門裕之氏が講演、妻・南田洋子氏の介護から感じ得たこと

故・皆川ヨ子^{よな}さんが世界最高齢者に認定された1月29日を「健康長寿の日」として制定した福智町。これを記念した福智町住民福祉講座が1月25日に同和対策研修センターで開催されました。



午前中は「これから元気で暮らしていくために」と題して、九州リハビリテー

ション大学の橋元隆教授が介護状態になるケースの紹介や生活習慣、食と運動の重要性などについて興味深く解説。



平原郷土芸能保存会による勇壮な獅子舞で幕開けた午後。部では、当初講師を予定していた俳優の津川雅彦さんが病欠のため、急ぎよ津川さんの兄で俳優の長門裕之さんが駆け付け、講演しました。妻で女優の南田洋子さんを介護する日々と認知症に夫婦で向き合い、感じ得たことを積雪のなか集まった満員の会場に語りかけました。

「当初、泣きながら台本を覚えようとしていた洋子、つらさを僕に見せたくない孤独、わかりますか。昨日会った洋子は



今日いないんです。記憶をなくして、最後はどうなるんだろう。手からこぼれ落ちていくように、僕が洋子の中からいなくなったら…言葉になりませんでした。妻の認知症という現実を受け止めた長門さんは「これからずっと洋子という。洋子と一緒にいたい。同じ目線に立って、苦しんだり、絶えたり、少しの希望を持つ

ていたい。その想いが仕事場でも僕を支えてくれます」と、心境が変化した過程を伝え、その日々の中で価値観が変わり、自分自身も成長した喜びと妻への感謝を表しました。最後に、感動を胸に聞き入る500人の客席に、人間の尊厳を失わな互いの人権を尊重した介護と、認知症に対する理解と認識を呼びかけました。



町長日誌

▼今年に入って早くも2か月が過ぎ、年度の終わりの月を迎えることになった。終わりと

は言え、そこかしこで万物の息づかいが聞こえてきそうな、そんな活力を感じさせる月——それが3月である。また、12月とは違った意味で1年を締めくくる、いわばまとの役割を果たす月でもある。とりわけ、各学校では卒業式という形で、所定の修学期間を修了したことの儀式が行われる。その際、よく語られるのが、目標を持って頑張っただけのフレーズではないだろうか▼一口に目標と言っても、個々のおかれた状況や年齢等によって、千差万別なのは当然である。もちろん、各自がそれぞれに目標(漠然としたものであるのか、明確なものであるのかは別にして)を胸に秘め、次へのステップに臨もうとしていると思うのだが…。問題は、その目標に向かって注ぐ思いの強弱が、達成できるか否かの別れ道になることである▼以前、広報紙に書いたように、私は東京・渋谷のデパートで夜間清掃のアルバイトをしていたことがある。夜10時までは時給90円、10時以降は時給150円となっていたので、12時まで働くことが多かった。当時、渋谷から池袋まで電気駆動のトロリーバスが通っており、それを利用して下宿先の新宿まで帰っていた。時には、最終に間に合わず歩いて帰ることもあったが、辛いと感じたことは一度もなかった。これは、学資を稼ぐという目標を現実のものにしたいという気持ちだが、支えてくれたからだと思う▼安易に自分自身と妥協しない——この姿勢を持ち続けることこそ、目標達成への原動力だと信じている。

浦田 弘二